



外部専門家による第5回の連携指導は ST（言語聴覚士）の先生による指導でした。今回の連携指導では、発音指導や摂食指導についてのアドバイスをいただきました。概要を以下にまとめましたのでご覧ください。

- 1 期 日 令和元年11月12日(火)
- 2 指導者 ST(言語聴覚士) 鹿児島医療技術専門学校 松尾康弘先生
- 3 参加者 生活支援センターなんさつ 神村晃大コーディネーター  
小学部2人 高等部1人 計3人  
担任 自立活動専任
- 4 主な指導内容について

## 発音指導について

- ・ 正しい発音を促すためには、舌や唇の細かい動きが必要です。そのための土台として体づくりを行い、姿勢や運動能力を高めることが大事です。また、コミュニケーションを楽しむこと、話す力・聞く力などの言葉の発達を促すことなど全体の発達が整うようにすることが必要です。障害のある児童生徒はコミュニケーションをとる機会が比較的少ないため、発音する機会も少ないので、歌を歌ったり、本を読んだりして言葉を発音する機会を作るとよいです。
- ・ 不明瞭な発音の原因の一つに舌の緊張や動きの発達の遅れがあります。口の前にスプーンを出し、舌を伸ばしてスプーンに触ったり、スプーンを押し下げることで舌の形を変えたり、動かしたり、緊張を高めたりすることができます。トレーニングをする際は、口とスプーンの距離を変えたり、位置を左右に変えたりするとよいです。
- ・ 声が小さく細い感じで話す児童生徒に対して大きな声で話さないと言っても余計に不安に感じさせてしまうことがあります。遊びや生活で自信がついてきたり、好きなことやしたいことが増えると、声が大きくなったり要求がはっきり言えるようになってくる場合があります。また、声が細かったときには「今の声はこれくらいだったね。」と小さな円を描いて視覚的に分かるように示し「次はこれくらいの大きな声で言おうか。」と大きな円を描くと伝わりやすいです。
- ・ 会話が早口であったり、話す速さに構音器官の動きがついていけなかったりして会話の内容が伝わりにくい児童生徒がいます。会話をする際、こちらが話す速さを抑えたり、ゆっくりうなずいたり、会話の終わりの部分をゆっくり伝え返したりして、ゆっくりした雰囲気を作ると話す速さを抑えるようになるので意識して話すとうよいです。



## 摂食指導について

自閉症のある児童生徒の食事に関する好き嫌いについては、味よりも食べ物に対するこだわりによるものが多いです。そこで、嫌いな食べ物に対しては「スプーンを当てるだけ」→「スプーンですくうだけ」→「スプーンを口に当てるだけ」→「かむだけ」といった指導を行い、こだわりを段階的に軽減していく方法があります。その過程で食べられそうなものが見つかったり、興味のあるものが分かってくることがあります。

